



## 【分科会報告会】

【交通分科会】

発表 浅野 周平氏  
講評 酒井 俊雄氏

「地方都市における

自動車保有動機の特徴に関する研究」

地方都市における自動車依存は顕著であるが、その中には合理的でない動機で所有する人もいる。この層が一定数存在する場合、公共交通の利便性を向上させたとしても期待通りの効果を見込むことができない。そこで、移動外目的保有動機によって自動車を保有している人がどの程度存在するのかを把握し、その特徴を明らかにする。

調査は全国の中核市を対象としてアンケート調査を実施し、八個の自動車の保有動機に対する重要度の算出や類型化、数量化を行った。

まず、自動車保有動機的重要度を算出した結果、移動目的外保有動機は一定の割合を占めることが示された。

次に、自動車保有動機的重要度を用いて、類型化を行った結果、五つの類型に分けることができ、そのうち二つが、移動目的外保有動機的重要度が大きいことが示された。約十三%がこれに該当し、移動目的外保有動機によって自動車を保有する層が一定数存在することが示された。

個人属性と自動車保有動機的重要度の関係を数量化I類によって分析した。その結果、移動目的外保有動機に影響を与える要因は、「自動車に興味性を持っている」では、子供がいない世帯の男性や専業主婦、「他社からの目が気になる」では、子供がいる世帯の専業主婦や世帯収入の低い人、「特に理由を考えずに無意識に」では、一人暮らしの女性などである。

今後は、公共交通施策の効果が大きいターゲット層の把握や、自動車保有動機に応じた公共交通施策の提案を行うことが重要である。

## 【地象分科会】

発表 梅田 祐一氏  
講評 加藤 式男氏

「福井の地名から学ぶ防災・減災について

（小浜市編）」

地象分科会では、昨年に引き続き小浜市を対象として、現地調査や文献を通して地形の特徴を捉え、地名との関連について考察していく。

現地調査に先立ち、水害の多発している北川周辺の地形地質と地名について調査した。このエリアの地名を調べると、水にまつわる可能性のあるものが多数あり、古くから水害を受けやすい地域であったことがうかがえる。

現地調査では、北川流域の江古川で現地調査を行った。北川下流域の江古川では治水対策として輪中堤の整備が進められている。また、北川は土砂供給力が高く、それに対して江古川のような小河川が合流する流域は後背湿地と呼ばれ浸水区域となりやすい。このような地域は、泥や腐敗土の堆積によって軟弱な地盤が形成されやすい特徴を持つ。

現在の地形と字名を見ると、太良庄の北川の北側には旧河道と思われる蛇行ラインがあり、この蛇行ラインを境に北側は「田」、南側は「原・瀬・河」の付く地名が多く、川の存在を留意に想像できる。古地図を確認すると、明らかに二本の河川が書かれており、地形と地名をみれば、この付近が氾濫原であることを把握できる事例となった。

江古川の合流点付近は、過去には水門を設ける計画があったが、現在では霞堤としての機能を維持しつつ、輪中堤などの個別対策を併用して流域治水を目指している。北川上流でも、支川流域の最下流の位置で霞堤が確認された。これらの霞堤は、対岸側に山体が存在するため、自然に霞堤としての地形が形成され、水門を設けず、これを活用しているように見受けられた。

## 【道路交通安全分科会】

発表 横木 剛氏  
講評 脇本 幹雄氏

「自動運転・Maas社会における

短距離移動支援・サービスのあり方」

昨年度は、短距離移動支援・サービスにおける「アシスト」概念の意義について論じた。今年度はより詳細にMaaSの体系を捉え、短距離移動支援・サービスにおけるMaaSの活用方策について検討した。

MaaSについて、現行法による歩行・走行空間や速度、都市・郊外などの場所や環境による使用局面について整理を行い、今回はこれをもとに新たなモビリティに対する法規制や技術基準、道路区間の再構築について、警視庁や国土交通省での検討状況を概括した。道路交通法による規制に関しては警察庁交通局では「多様な交通主体の交通ルール等の在り方に関する有識者検討会」を設置し、報告書が策定された。これを受け、特定小型原動機付自転車、遠隔操作型小型車の新たな交通主体の交通方法等に関する規定が整備されている。技術基準に関しては「新たなモビリティ安全対策ワーキンググループ」を設置し、小型低速車の最高速度を時速一五〇キロメートル以下に制御する機能や方向指示器等を義務付けする等の基準を定めている。道路空間の再構築に関しては、国土交通省道路局が「多様なニーズに応える道路空間のあり方に関する検討会」を設置し、道路空間の再構築の検討内容や手順、有用な個別施策等の適用の際のメリットや留意点を取りまとめられた。

これまで及び今回検討した内容をふまえ、MaaSの活用方策について提案した。元気な前期高齢者で免許保有者は自転車の活用、若い世代やアクティブな高齢者は電動キックボード等の活用も考えられる。また、後期高齢者や支援度合が高まる高齢者は電動車椅子等の歩行支援MaaSへのニーズが高まるといえる。

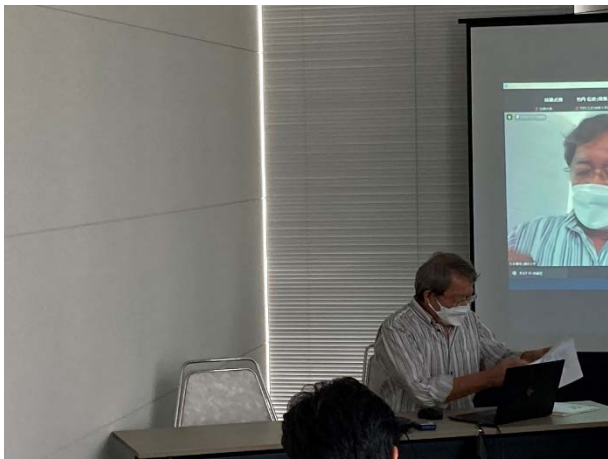
本研究でMaaSの運用や活用方策等を検討し、MaaSの活用は、歩行領域を広めるという観点と歩行の援助装置として使用するという観点がある一方で、MaaSの運用や空間整備面の課題も把握された。



地象分科会の報告



交通分科会の報告



川上氏による総評



道路交通安全分科会の報告

☆入退会のお知らせ☆ (敬称略)

《退会》

正会員 藤井 浩都

張 然

賛助会員から転格

令和四年五月三十一日時点

正会員 六十五名  
賛助会員 三十五名

合計 百名

【会費の納入について】

会費の納入をお願いします。

■年会費

正会員 … 一二,〇〇〇円

賛助会員 … 三,〇〇〇円

■会費納入先

《振込みの場合》  
ゆうちょ銀行

振替口座 七三〇・三・二〇三九六

福井地域環境研究会

※機関紙巻末の振込用紙をご利用ください。

《直接支払う場合》

総会、中間報告会、談話会等開催時、または、  
左記、財務幹事まで直接お支払いください。

【財務幹事】

〒九一〇八五八〇

福井県福井市大手 三一一七一  
福井県 都市計画課

服部 正秀

TEL 〇七七六・二一〇・〇四九七

Mail mm.hattori.rk@gmail.com